



丹高だより



Tanbara High School Newsletter 2026

令和7年度2月号

		《2月》 令和7年度 学 校 行 事 予 定	
日	曜	行 事	PTA関係・校外行事
1	日	全商商業経済検定	
2	月	二次対策特別授業(3年)開始	
3	火	教育相談アンケート(第3回)	
4	水	丹高マラソン大会	
5	木	3年生登校日(13:30~14:20) 進路ガイダンス(1、2年) 個人面談月間(3/4まで)	
6	金	進研共通テスト模試(2年)	
7	土	↓	
8	日		
9	月		
10	火		
11	水	建国記念の日	
12	木	3年生登校日(13:30~14:30) 礼法指導(14:40~)	農ク第2回顧問委員会
13	金	学年末考査時間割発表(1、2年)	
14	土		四国対話万博(13:30~16:30愛媛大学)
15	日		
16	月		第2回霊峰会評議員会 (16:00~記念会館)
17	火		
18	水	農家実習①(園芸2年)	
19	木	交通指導 45分授業 3年生登校日(13:10~14:50) 身だしなみ指導 全校歌唱練習(15:00~15:30) eat収録(15:30~)	
20	金	学年末考査(1、2年~2/27) 身だしなみ指導(1、2年)	
21	土		
22	日		
23	月	天皇誕生日	
24	火		
25	水		第2回学校評議員・学校関係者評価委員会 (14:00~16:00記念会館)
26	木		PTA臨時常任理事会 (16:00~記念会館)
27	金	同窓会入会式 卒業式予行 表彰式	
28	土		

《挨拶について・自転車の交通違反について》

生徒課

今年度も残り後わずか。卒業、進学の時期となりました。3年生には今までの丹原高校での生活を振り返り、『有終の美』を飾ることができるよう、最後まで精一杯の努力を続けてほしいと思います。少しの気の緩みや安易な妥協から、今までの努力や積み重ねが台無しにならないようにしましょう。御家庭におかれましては、今一度子どもさんの言動や服装を確認していただき、問題行動や非行につながることをないよう、御注意いただきたいと思います。『親の一言』で救われたというケースもあります。家庭内の対話を大切にしてください。

挨拶の効果についてですが、挨拶の「挨」には、心を開くという意味、「拶」には、その心に近付くという意味があります。要するに、挨拶とは、自分の心を開くことで、相手の心に近付いていく積極的な行為なのです。

このように、挨拶は「あなたの存在を見つけました。よろしくお願いします。」という人間関係をスタートさせるコミュニケーションの第一歩といえます。ですから、自分で挨拶をしたつもりでも、小さい声で「おはようございます」とか「こんにちは」というだけでは、相手にきちんと伝わる挨拶とは言えません。相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてするのが挨拶の基本であると思います。

※4月1日より、自転車に対する交通反則通告制度「青切符」の導入が開始します。

16歳以上の自転車をはじめとする軽車両の交通違反者に対し、自動車等と同様に「交通反則通告制度」いわゆる「青切符」が適用されます。御家庭でも話題に出して話していただければと思います。

違反行為・反則金は以下のとおりです(一部)。

- ・ながらスマホ 12,000 円
- ・信号無視 6,000 円
- ・一時不停止、イヤホンの使用 5,000 円
- ・並進・二人乗り 3,000 円

《保健室より》

相談・保健課

日頃より本校の保健活動に御支援・御協力いただきありがとうございます。

今回は『会話』と『対話』について考えてみました。会話は、日常のやり取りや情報の交換が中心で、答えを見つけることが目的になることが多いものです。一方、対話は、結論を出すことを急がず「どんな気持ちだったのか。」「なぜそう感じたのか。」と一緒に考え、気持ちを分かち合うことを大切にします。

北欧の国フィンランドでは1980年代に、前述したような対話を通して対象者との関係を築いていく「オープンダイアログ」という考え方が開発されました。これは精神医療で用いられており、ほとんど薬を使わない治療として知られています。北欧は冬が長い気候のためか、夕方から夜の時間にかけて家族や友人と語り合う時間を大切にする人が多いと言われています。

保健室では、子どもが安心して自分の気持ちを言葉にできるよう心掛けたいと思います。また、「どうしたの?」と出来事を尋ねるだけでなく、「その時どんな気持ちだった?」と気持ちに目を向けることで、子ども自身が自分の気持ちを整理していく姿が見られることもあります。

御家庭でも今までどおり、お子様の気持ちに耳を傾ける時間を持っていたいただけたらと思います。大人に受け止めてもらえたという安心感が、子どもが前に進む力になると考えています。